

## 東京都立小松川高等学校

### 令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

#### 1 組織

##### (1) 都立小松川高等学校学校運営連絡協議会

##### (2) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主任教諭（教務部主任）、主幹教諭（進路指導部主任）、主幹教諭（生活指導部主任）、主幹教諭（探究部主任）、主幹教諭（3学年主任）、主任教諭（2学年主任）、主任教諭（1学年主任） 計10名

##### (3) 協議委員の構成

保護者代表1名、近隣小学校長1名、近隣中学校長1名、地域教育委員会1名、地域住民代表2名、地域関係機関代表1名、同窓会代表1名、学識経験者2名 計10名

##### (4) 事務局の構成 事務局長（総務部主任）、事務局員（総務部1名） 計2名

#### 2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

##### (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月17日（金）内部委員10名、協議委員9名

協議委員及び評価委員委嘱状、委員名簿、設置要綱、学校経営について、学校近況報告、学校評価について、事務連絡。

第2回 令和4年11月18日（金）内部委員10名、協議委員8名

授業観察、学校近況報告、学校評価アンケート（案）について、意見交換、事務連絡

第3回 令和5年2月10日（金）開催予定であったが、大雪警報発令のため、書面開催とした。

外部協議委員10名に資料を郵送した。内容は、学校近況報告、学校評価アンケート結果について、事務連絡。

##### (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月17日（金）内部委員3名、外部評価委員3名

昨年度の学校評価の課題確認、今年度の学校評価の基本方針

第2回 令和4年11月18日（金）内部委員3名、外部評価委員3名

今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第3回 令和5年2月10日（金）開催予定であったが、大雪警報発令のため、書面開催とした。

外部評価委員3名に資料を郵送した。内容は、アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書の検討

#### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

##### (1) 学校評価の観点

「学校全般」「学習指導」「進路指導」「生活指導」等

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・ 11～12月 全校生徒 879人 (回収率93.5%)
- ・ 11～12月 保護者全員 731人 (回収率77.8%)
- ・ 11～12月 地域住民 89人 (回収率74.2%)
- ・ 11～12月 教職員 60人 (回収率100.0%)

(3) 主な評価項目

学校全般、学習指導、進路指導、生活指導、保健・安全管理及び家庭・地域等との連携、ライフ・ワーク・バランスの推進

(4) 評価結果の概要

各項目について、生徒と教員は「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4段階評価で、保護者と地域は「わからない」を加えて5段階評価で回答を得た。「そう思う」と「ややそう思う」の割合を合計しパーセンテージで比較した。調査項目については、生徒、教員、保護者、地域関係者が共通した項目について応えられるように作成した。表では調査項目に生徒用の項目を使用している。なお\*は全回答のうち「わからない」が20%~40%、\*\*は同じく40%を超えている回答中のパーセンテージである。また昨年に比して10%以上の増減があった場合は↑↓を付した。

番号	調査項目	生徒	教職員	保護者	地域
Q1	小松川高校での生活に満足している。	85%	85%	88%	*79%
Q2	小松川高校に入学してよかった。	85%	79%	93%	100%↑
Q3	授業を通して進路希望実現に必要な学力が確実に身に付いている。	76%	95%↑	70%	
Q4	授業の内容は分かりやすい。	82%	86%		
Q5	授業は学習意欲の向上を図る工夫をしている。	63%↓	94%↑		
Q6	生徒一人ひとりの理解度に応じた指導をしている。	60%	75%		
Q7	先生は授業の内容への質問に分かりやすく答えている。	91%	90%		
Q8	本校で出されている課題は進路希望実現に役立っている。	57%↓	83%↑		
Q9	補習・講習は進路希望実現のために役立っている。	90%	97%	*60%	
Q10	本校は生徒の自主的学習を支援している。	70%↓	83%	66%	
Q11	本校は読書意欲を高める工夫をしている。	24%↓	60%		
Q12	本校の進路指導は進路希望実現に役立っている。	79%	83%	75%	
Q13	生徒一人ひとりの希望や個性、適性に応じた進路指導をしている。	58%↓	81%	61%	
Q14	進路に関する情報が十分に提供されている。	87%	82%	74%	
Q15	進路に関する相談・面接が十分に行われている。	73%↓	90%	58%	
Q16	本校は模擬試験の結果を学力向上につなげる指導をしている。	75%	88%	*56%	
Q17	服装や髪型等、身だしなみに関する指導を行っている。	81%	80%	83%	83%
Q18	挨拶や時間遵守等、基本的な社会規範を守る態度を育てている。	87%	90%↑	90%	77%↑
Q19	登下校時の交通安全や自転車の事故防止の指導を行っている。	93%	92%↑	79%	65%↑
Q20	今年度の本校の代替行事に満足している。	68%	78%	65%	
Q21	本校の部活動は充実している。	85%	88%	87%	
Q22	私は学習と部活動を両立できている。(生徒の部活未加入者除く)	61%	83%	72%	
Q23	本校は、体罰や暴言等をなくすために、積極的に取り組んでいる。	74%	91%	*63%	
Q24	本校は、いじめをなくすために、積極的に取り組んでいる。	68%	87%	*56%	

Q25	本校は、心配なことや不安、健康に関する相談等に十分対応をしている。	69%	92%	*56%	
Q26	学校は、事故や災害等への対応・対策を十分行っている。	77%	87%	*62%	*49%↑
Q27	本校の施設・設備は充実している。	44%	48%↑		
Q28	学校は、本校の教育活動に関する情報提供は十分なされている。		80%	65%	*34%
Q29	本校は、地域に貢献している。	50%		**48%	51%↑
Q30	計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員の一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図っている。		43%		
Q31	国や都が働き方改革に取り組んでいることを知っている。		35%	74%	*41%
Q32	各種会議の上限時間を設け、教職員の在校時間の縮減を図っている。		30%↑		
Q33	本校の教育活動に関心をもっている。				*50%↓

## (5) 評価結果の分析・考察

### ア 今年の評価の特徴

本年度も全体を通じて、おおむね数値は高く、教育活動の成果が現れていると考えられるが、昨年との対比により課題を明らかにする。

上記(4)の評価結果一覧表中で、昨年に比して10%以上の増減があった項目の数に注目すると、次のような結果であった。【生徒 ↑=0、↓=6】 【教職員 ↑=7、↓=0】

【保護者 ↑=0、↓=0】 【地域 ↑=5、↓=1】

生徒の評価は、昨年に比して下降している。令和元年度までの数年間の数値を見ると、生徒、保護者、地域は、ほとんどの項目が前年とあまり変わりなく推移してきている。しかし令和元年度から2年度、3年度へと、評価の数値は大きく変化したものもある。さらに教職員の項目においては、多くの評価が昨年より上昇している(昨年度は反対に多くの評価が下降していた)。これは令和2年度から大流行している新型コロナウイルス感染症により、教育活動の様々な場面に制約のあったものが次第に緩和されてきた影響と解釈されるかもしれない。ただこの変化を真摯に受け止め課題に向き合う態度から、新たな取組の糸口が見つかるものと思われる。

#### ① 学校全般について

Q1、Q2 共にすべてのアンケート調査対象において高い満足度を維持しているとは言えるが、昨年度に比して、生徒のQ1「満足度」、Q2「入学して良かった」は90%を下回り85%であった。学校経営計画に掲げた90%以上の数値目標を、今年度は達成することができなかった。今後、生徒への理解を促進し、一層の工夫と努力を重ね、9割の数値に回復させたい。保護者の数値は、概ね昨年と同等で高い満足度と一定の評価をいただいている。地域の方の数値は、上昇し、Q2については100%の評価をいただいた。地域の方から、小松川高校の生徒の礼儀正しく、生き生きと登下校している姿や、交通安全への意識と地域との交流が再開され、生徒の姿を身近に御覧いただく機会が増えてきたためと考えられる。引き続き、学校の様子を地域に伝える工夫や情報提供が必要であると思われる。

#### ② 学習指導について

学習指導については、Q5「授業は学習意欲の向上を図る工夫をしている」とQ8「授業の課題は進路希望実現のために役立っている」について、昨年比で、生徒は10ポイント以上下降し、反対に教職員の方は10ポイント以上上昇し、生徒と教職員の結果に大きな食い違いが生じた。授業の工夫や課題の多さについて自由記述にもいくつかの意見が見られた。授業等についての生徒の意見には、【自由記述から引用・教員間で授業の仕方を共有するなどして頂きたい。・授業のレベルは教師間でばらつきが見られる。・先生同士で時間割を確認して、小テストや課題が重ならないようにし

てほしい。・課題が多すぎて個々にあった勉強が十分にできない。常識的な量、自分に合った勉強ができる量にして頂きたい。受験勉強や睡眠の時間も取れません。】といった内容が見られた。

一方で、Q7「質問への分かりやすい回答」、Q9「補習・講習は進路希望実現に役立っている」については、依然として90%以上の生徒が肯定的に回答しており、ここは授業等に対して、生徒が求めるものと、教員が提供しようとする内容が一致しない、もしくは教員の指導方法が生徒に理解されていない、ということであろうか。教員の一方的な考えでなく、一人一人の理解度に応じた指導をするとともに、個々の生徒の疑問に丁寧に対応し、理解に結び付けていくことが重要である。また、Q11の「読書活動支援」の生徒の数値は、昨年度以上に低い値であり、本校の課題の一つである。進路指導、学年、教科の連携、及び年次進行で実施する「総合的な探究の時間」を有効活用し、より一層「読書意欲」を高める指導の工夫を図っていく。

### ③ 進路指導について

生徒の評価については、総じて数値が下降している。とくにQ13については6割を切っており、生徒一人ひとりの希望や適性に応じた進路指導を望む、切実な生徒の声であり、真摯に受け止めて今後指導にあたっていく。教員と保護者の数値については概ね維持しているようであるが、Q15の「進路に関する相談・面接が十分に行われている。」は、生徒、保護者ともに下降している。これは次年度以降の進路指導の大きな課題である。関係分掌、学年で検討を行うが、生徒の状況に応じた面接や、保護者への情報提供等を丁寧に行うなど、地道な努力を重ねる事。引き続き、次年度も模試結果を活用し、データに基づいた進路指導を行うことや、ケース会議で情報を学年と共有するなどの取り組みを継続する事が重要と考えられる。今後も広く進路に関わる情報を保護者と共有していく必要がある。

### ④ 生活指導について

昨年度改善が見られたQ17 Q18が、今年度は概ね維持している。またQ19については、生徒、保護者、教職員、地域と、すべての評価が上昇した。これは生徒への規範意識の涵養や安全指導について、多くの教職員が危機意識を持つようになってきた結果と見るべきだろう。今年度も朝の立ち番や自転車指導の徹底及びHR等での注意喚起など指導を続けており、さらに規範意識や安全への意識を深める必要があるとの認識に立ち、今一度対応策を進めるべく検討を行っている。自由意見には地域に貢献している肯定的な意見がある一方、自転車をはじめとする交通マナーに関しての指摘もあり、引き続き改善していく。一方、Q20の「今年度の本校の代替行事に満足している」は昨年少し上昇したが、今年度は生徒、保護者ともに下降している。コロナ禍の中においても引き続き、充実した三大行事となるよう生徒とともに工夫を凝らしていきたい。Q22「学習と部活動を両立できている」については、やや下降したものの維持していると評価できる。ここにもコロナ禍の影響があると思われるが、部顧問や担任と生徒との面談や教育相談を一層充実させ、生徒に寄り添った指導を推進していきたい。Q23 Q24の結果は昨年から横ばいの状況であるが、体罰や暴言、いじめなどの無い学校づくりを本校が積極的に実践していることに、生徒から一定の理解が得られているものと考えられる。引き続き、生徒が安心して学校生活を送れるような学校づくりに邁進していく。

### ⑤ 保健・安全管理及び家庭・地域等との連携、ライフ・ワーク・バランスの推進について

Q27「施設設備」については、生徒の数値は年々下降気味である。洋式トイレの導入、トイレコーディネータやPTAの取り組みによってトイレの環境改善の取組が行われたりなど、引き続きPTAとの協力体制を維持していきたい。Q28の「情報提供」については、特に地域の方の回答については「わからない」という回答が20%を超えており、小中学校と違って段違いに情報の発信量が減ってしまう現状を改善する必要がある。Q33の「本校の教育活動に関心を持っている」は横ばいの状況であるが、コロナ禍においても必要な情報発信を効果的に行うよう検討していく。

## イ 指導の結果と評価の関係

### <Q1「満足度」の各学年における推移>

	29年度	30年度	31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
平成27年度入学生	88.4%					
平成28年度入学生	84.4%	89.9%				
平成29年度入学生	84.5%	85.6%	90%			
平成30年度入学生		91.5%	90%	93%		
平成31年度入学生			92%	91%	93%	
令和2年度入学生				92%	86%	85%
令和3年度入学生					91%	86%
令和4年度入学生						85%
平均	85.8%	89.0%	90.6%	92.0%	90.0%	85.3%

学校満足度の推移の資料を作成した。ここ数年は90%を超える満足度となっていた。しかし、今年度は、5%下降し、85%程度となり、5年前の平成29年度と同等となった。このことを学校、教職員の日々の指導に対する反省の材料として、今一度気持ちを引き締め、生徒の学校生活の満足度9割以上に回復していくため、全力で日々の指導に当たっていきたい。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

今年度の協議会を通じて、学校評価を活用した学校の活性化、学力の向上の取り組み、コロナ等の危機的状況にも対応した教育活動の推進等が課題となった。

学校評価アンケートについては、授業改善や進路相談等への課題をご指摘頂くと共に、生徒の要望を正しく受け止める必要性を認識させられた。本協議会で様々ご意見ご提案を頂き、それを学校の取り組みに活かしP D C Aサイクルの取り組みを展開していくことにより、改善への方向を探っていきたい。一方、継続的に取り組んできた登下校時のマナーや交通規則の遵守については、改善されつつある。ただし、地域からの目はいまだ厳しいものがあり、社会人として通用する規範意識のより一層の醸成が必要である。また、読書活動も本校に欠かすことができない教育活動であり、今後も引き続き計画的・組織的に読書活動の活性化に取り組んでいく必要がある。

学力向上については、進学指導特別推進校としての取り組みが評価された。進路指導についても充実が見られ、理数研究校の指定に基づいた活動、海外学校間交流を推進したことなどが評価された。授業見学を経て授業に対する評価も高かった。単なる知識の獲得にとどまらない総合的な一段高い学びの実践が求められており、大学入学共通テストや新学習指導要領の実施も念頭に置き、組織的な対応が必須である。

地域貢献活動は、一クラブ一善運動などにより地域に愛されている伝統校として教育活動を地域に還元する活動が充実してきている。一方、情報提供についてはより一層工夫していく必要がある。次年度も学習指導や進路指導の充実を一層図り、保護者や同窓会の賛同を得て、地域に貢献していくことが大切であると再認識した。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

##### (1) 学校運営

情報化、国際化、授業力向上、カリキュラム・マネジメント、危機に強い教育環境の整備等、新しい時代の課題に対応できるよう、学校の組織的運営を一層進める。「バランスのとれたリーダー」を育成する学校として、保護者や同窓会の賛同を得、教育活動を地域に還元していく必要がある。

##### (2) 学習指導・進路指導

「進学指導特別推進校」として、「授業で勝負」を合い言葉に次年度も学習指導や進路指導の充実

を一層図り、教科会・教科主任会を開催し、学校全体の課題について共通理解を図る。教員の授業力向上のための授業見せ合い月間の充実と、進学重点校などの授業見学・学校訪問を積極的に実施する。計画的・組織的な読書活動の活性化、授業をはじめ教育活動全般のオンライン化をさらに進めることも必要である。

(3) 生活指導

地域貢献活動や国際交流等を一層盛んにしていく。また、体罰防止やいじめ防止などの取り組みをすすめて、安全で安心な学校を維持していくとともに、登下校時や自転車の乗車マナーの改善、挨拶運動など本校生徒にとっての規範意識の醸成が必要である。また、学習と部活との両立に関しては一層の工夫が必要である。

(4) 学校についての協議委員の意見（協議委員人数10名）

ア 学校評価を活かした取り組みについて

○コロナ禍での学校運営に対して、様々な意見があることは承知しております。その中で、学校への満足度、学習指導、進路指導、部活動等々、根幹の部分で全対象者から肯定的意見が多いことは長年の成果の表れであると思う。

イ 学習指導の取り組み

○個人意見の部分で、「課題」に関する内容が目立ちます。これは「課題」の量なのか？質なのか？その意義がメッセージとして生徒に十分に伝わっているのか？教科主任会でお話合いされることを期待します。

○「読書活動の推進への支援」という項目について、生徒さんがあまり感じていないというのが気になりました。江戸川区では、平成24年度から区内の全小中学校が、「本好きな子供を育てる。」「本で学ぶ子供を育てる。」ことを目的として「読書科」という授業を行っています。受験勉強に追われているという現状は理解できますが、変化の激しい社会に主体的に対応していくために、そして、国際社会で活躍する人材になるために、ぜひ進めていただけたらと思います。

ウ 地域貢献の取り組み

○地域との関わりのところで、「時々、ゴミ拾いを生徒さんがしている。」というように、地域内の見方として、良い方に考えてもらっており、生徒の意見も同じように肯定的意見が多い。今後もよい御指導を継続してほしい。

エ その他、感想等

○自由記述の内容が、全生徒、全保護者の思いではないにしても、少数意見にも真摯に耳を傾けた上で、今後の学校経営、学校運営に活かしていくことは大事だと思います。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
9	1					

7 その他

- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。
- ・保護者、地域への情報提供を一層工夫する。
- ・教員の働き方改革を推し進め、生徒への教育活動の改善へつなげていく。